

リニュロン水和剤 ロロックス	取扱メーカー： 日農、ホクサン、丸和 原体メーカー： T K I
成分： リニュロン〔尿素系 PRTR・1種〕……………50.0%	性状： 類白色水和性粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- ほとんどの一年生雑草に対して非選択的に作用するが特に広葉雑草に卓効を示す。
- 使用適期は雑草発生前～発生始期。
- 土壌処理すると表層に安定した処理層を形成し、雑草の発生及び生育を阻害する。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- イネ科雑草が優占しているところでは、他剤との現地混用又は体系処理が望ましい。
- 処理後土の表層をこわしたり、動かしたりしない。
- 10 a 当り 70～150ℓの水に加え、十分かきまぜてから均一に散布する。
- 土壌表面が適湿の時に効果的である。
- 雑草発生前よりも発生直後の方が除草効果は安定する。
- 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合があるので、時期を失しないように散布する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 砂質で水はけのよい畑では薬量を控えめにする。
- 激しい降雨が予想される時は使用しない。
- 砂土、れき質土壌、心土が露出しているような土壌及び腐植含量が1%以下の土壌では使用しない。
- 覆土が薄いと薬害がでやすいので覆土は細かく砕いて均一厚目にする。
- 砂土では使用しない。
- アスパラガスの畦間・株間処理に使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので擬葉にかからないように散布する。
- 雑草茎葉兼土壌散布では、散布適期は雑草生育期であり生育の進んだ雑草には効果が劣るので時

期を失しないようにする。

作物名	雑草の草丈
だいず、えだまめ	15cm 以下
アスパラガス、かんしょ	10cm 以下

- ねぎに使用する場合は、薬液がかかると葉先が黄化する場合があるので葉身にはかからぬように畦間土壌面に散布する。
- にらに使用する場合は、薬害を生じるおそれがあるので本圃の定植後に使用する。
- 高畦栽培のかんしょは効果が低下するので使用をさける。
- セルリー、かんしょ及びやまのいもに使用する場合は、薬液がかかると薬害を生じるので、作物にかからぬように畦間に散布する。
- にんじん、セルリーに使用する場合は、高温時は薬害を生じるおそれがあるので使用しない。
- にんじんの生育期に使用する場合は、品種により薬害を生じることがあるので、事前に使用品種における薬害の有無を確認する。
- とうもろこしに使用する場合は、スーパースイート系では薬害を生じることがあるので、使用をさける。
- たらのぎに使用する場合は、穂木にかからないよう散布する。
- だいずの畦間・株間処理に使用する場合は、専用ノズルを使用する。また噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する。
- マルチ栽培、トンネル栽培等での使用は薬害を生じるおそれがあるので、さける（にんにくを除く）。
- 適用作物（ねぎ、かんしょ、桑、果樹など）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- 適用外作物（一般作物）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】

- 蚕に対して影響があるので、桑葉にはかからないようにする。
- 藻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時並びに使用後も注意。
- 使用後、容器や散布器具は必ず水で十分に洗う。

● 散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。

● 眼に対して刺激性がある。

● 皮膚に対して弱い刺激性がある。



【適用と使用法】

作物名	適用 雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	リニユロンを含む 農業の総使用回数		
			薬量	希釈水量					
りんごもか	一年生 雑草	雑草発生前～ 発生始期 但し、 収穫30日前まで	300g	70～ 150 ℓ	1回	全面土壌 散布	1回		
なし		雑草発生前～ 発生始期 但し、 収穫90日前まで							
麦類（秋播）		は種後～発芽前 （雑草発生前～ 発生始期）	100～ 200g					雑草茎葉 兼土壌散 布（畦間 ・株間処 理）	2回以内 （全面土壌散 布は1回以 内、雑草茎葉 兼土壌散布は 1回以内）
だいず えだまめ		は種直後～出芽前 （雑草発生前～ 発生始期）							
		本葉3葉期以降 但し、 収穫30日前まで （雑草生育期）							
いんげんまめ		は種直後	100～ 150g			全面土壌 散布	1回		
べにばないんげん		は種後出芽前 （雑草発生前）	75～ 100g						
らっかせい とうもろこし 飼料用とうもろこし		は種直後	100～ 200g						
		は種直後 （雑草発生前）							
ソルガム		は種直後	100～ 150g						
にんじん		にんじん3～ 5葉期 但し、 収穫30日前まで （雑草発生始期）							
		かんしょ	種いも植付後 萌芽前まで				200g	2回以内 （全面土壌散 布は1回以 内、雑草茎葉 兼土壌散布は 1回以内）	
一年生 広葉雑 草	苗移植5日前 頃まで		150～ 200g						
		生育期 但し、収穫45日前 まで（雑草生育期）	100～ 200g	雑草茎葉 兼土壌散 布（畦間 処理）					

作物名	適用 雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	リニュロンを含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
ばれいしょ	一年生 雑草	植付直後～萌芽前	100～ 200g	70～ 150 ℓ	1 回	全面土壌 散布	1 回
さといも		植付直後					
こんにゃく		植付直後			2 回以内	畦間土壌 散布	2 回以内 (粒剤は 1 回 以内)
		生育期 但し、収穫 60 日前 まで (雑草発生前 ～発生揃期)					
やまのいも		植付直後	全面土壌 散布	2 回以内			
		生育期 但し、収穫 60 日前 まで (雑草発生前 ～発生揃期)					
やまのいも (むかご)		植付直後	畦間土壌 散布	2 回以内			
		生育期 但し、収穫 60 日前 まで (雑草発生前 ～発生揃期)					
アスパラガス	萌芽前 (雑草発生前 ～発生始期)	150～ 200g	100～ 150 ℓ	全面土壌 散布	2 回以内 (全面土壌散 布は 1 回以 内、雑草茎葉 兼土壌散布は 1 回以内)		
	萌芽始期 但し、収穫前日 まで (雑草発生前 ～発生始期)						
	一年生 広葉雑 草					生育期 但し、収穫前日 まで (雑草生育期)	雑草茎葉 兼土壌散布 (畦間・ 株間処理)
	にんにく	一年生 雑草	植付前 (マルチ前) (雑草発生前)			100～ 150g	70～ 150 ℓ
植付後～萌芽前 (雑草発生前)							
ねぎ (露地栽培)	一年生 広葉雑 草	定植後 但し、収穫 30 日前 まで (雑草発生前)	75～ 150g	100 ℓ	畦間土壌 散布		
		定植 30 日後以降 中耕培土後 但し、収穫 30 日前 まで (雑草発生揃期)			雑草茎葉 散布又は 全面散布		
あさつき	一年生 雑草	植付直後～萌芽前 (雑草発生前～ 発生始期)	150g	70～ 150 ℓ	全面土壌 散布	2 回以内 (種球植付後 は 1 回以内、 生育期は 1 回 以内)	
にら		収穫 30 日前まで (雑草発生前)	100～ 150g				
らっきょう		種球植付後 (雑草発生前)	150g		畦間土壌 散布		
		生育期 但し、収穫 30 日前 まで			全面土壌 散布		
セルリー		定植後 但し、定植 7 日後 まで (雑草発生前)	100～ 150g		畦間土壌 散布	1 回	
とうき		中耕・培土後 但し、 収穫 120 日前まで	100g				2 回以内

作物名	適用 雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用方法	リニュロンを含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
た ら の き	一年生 雑草	中耕・培土後 (雑草発生前)	100g	70～ 150 ℓ	2回以内	畦間土壌 散布	2回以内
食 用 ゆ り わさびだいこん		植付後萌芽前 (雑草発生前～発生 始期)	100～ 150g		1 回	全面土壌 散布	1 回
み つ ば		は種後出芽前 (雑草発生前)					
は つ か		収穫120日前まで	100g				
お う ぎ		は種後出芽前 (雑草発生前)	100～ 150g				
桑		4～10月	100～ 200g				
えごま(種子)		本葉5葉期以降 中耕後 但し、収穫90日前 まで(雑草発生前)	100g	100 ℓ		畦間土壌 散布	